

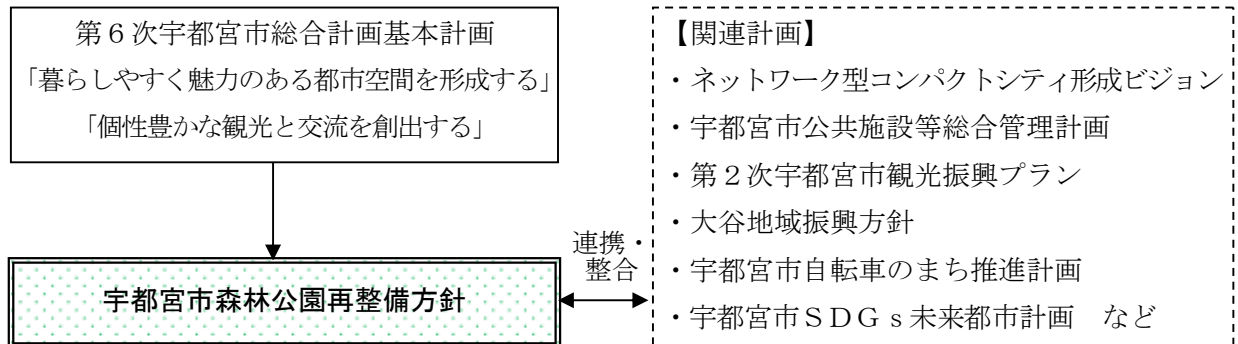
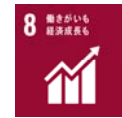
「宇都宮市森林公園再整備方針」の策定について

1 策定の目的

今後、森林公園が自然に親しめる場としてより多くの市民に利用されるとともに、自然を活かした体験型観光地として観光客を誘客できるよう、森林の多面的機能の維持など自然環境の保全に努めながら、森林公園の魅力向上を図り、引いては、「大谷地域」「ろまんちっく村」との周遊性の向上につなげ、大谷周辺地域全体を活性化していくための指針となる、「宇都宮市森林公園再整備方針」を策定するもの

2 方針の位置づけ

- 「第6次宇都宮市総合計画基本計画」を実現するため、関連計画との連携を図りながら、概ね10年先の森林公園の姿を見据え、魅力向上等に向けた再整備の基本的な指針となるもの
- SDGsの目標「8 働きがいも経済成長も」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に貢献するもの



3 方針の内容・特徴

(1) 内容

「宇都宮市森林公園再整備方針」・・・別紙

(2) 特徴

ア 再整備に係る3つの方向性の設定

森林公園の現状と課題を踏まえ、再整備に係る3つの方向性を設定し、『遊ぶ』をキーワードにした『森・水・自転車に会い触れ合うアウトドアフィールド』として、年間35万人（現状24万人の概ね1.5倍）の来訪者を目指すこととした。

① 森林公園の有する資源のフル活用による魅力向上

自然体験型観光ニーズの高まりを踏まえ、森林公園の有する豊かな自然環境や、ジャパンカップサイクルロードレース開催地の強みをフル活用することにより、森林公園の魅力向上を図る。

【方向性に基づく導入・強化する主な機能】

- ・ 古賀志山などの自然や赤川ダム湖面を活かしたアウトドア体験機能
→ 湖面や森林を活かしたアクティビティ体験など
- ・ ジャパンカップを活かしたサイクルスポーツ体験機能
→ 地形を活かした多様なサイクルスポーツ体験など

② 自然に親しみながら憩える場としての機能強化によるおもてなしの充実

ニーズの変化や自然災害の増加等を踏まえ、自然に親しみながら憩える場としての機能強化を図ることにより、市民をはじめとする全ての来訪者にとって、安全・安心で快適な滞在・憩いの環境を創出する。

【方向性に基づく導入・強化する主な機能】

- ・ 総合インフォメーション機能
→ 来訪者の利用目的に合わせた総合案内やアクティビティ体験等の受付
- ・ 快適な滞在・憩いのための機能
→ 温浴機能等の日帰りアメニティや、地場農産物等を活かした森林公園ならではの特色ある飲食・物販など

③ 大谷周辺地域の周遊環境向上による更なる活性化の促進

「大谷地域」「ろまんちっく村」との周遊性向上につながる環境を創出することにより、大谷周辺地域全体の更なる活性化を促進する。

【方向性に基づく導入・強化する主な機能】

- ・ 大谷地域・ろまんちっく村との周遊機能
→ 大谷地域等との周遊手段や来訪者の受入環境など

イ 民間活力を最大限活用した再整備

再整備に当たっては、民間活力を最大限活用することとし、今後、土地利用に係る諸規制を踏まえながら、民間事業者への意向調査を通じて、ICTの活用も視野に具体的な整備内容や、効果的な事業手法等を検討し、再整備基本計画として取りまとめていく。

4 今後のスケジュール

令和3年7月～ 再整備方針に基づき民間事業者への意向調査を実施
調査を通じて、民間活力を最大限活用した整備内容、整備・事業スキーム及びスケジュール等を検討

令和4年3月 「(仮称)宇都宮市森林公園再整備基本計画」策定

宇都宮市森林公園再整備方針

策定の目的等

1 策定の目的

今後、森林公園が自然に親しめる場としてより多くの市民に利用されるとともに、自然を活かした体験型観光地として観光客を誘客できるよう、森林の多面的機能の維持など自然環境の保全に努めながら、森林公園の魅力向上を図り、引いては、「大谷地域」「ろまんちっく村」との周遊性の向上につなげ、大谷周辺地域全体を活性化していくための指針となる、「宇都宮市森林公園再整備方針」を策定するもの

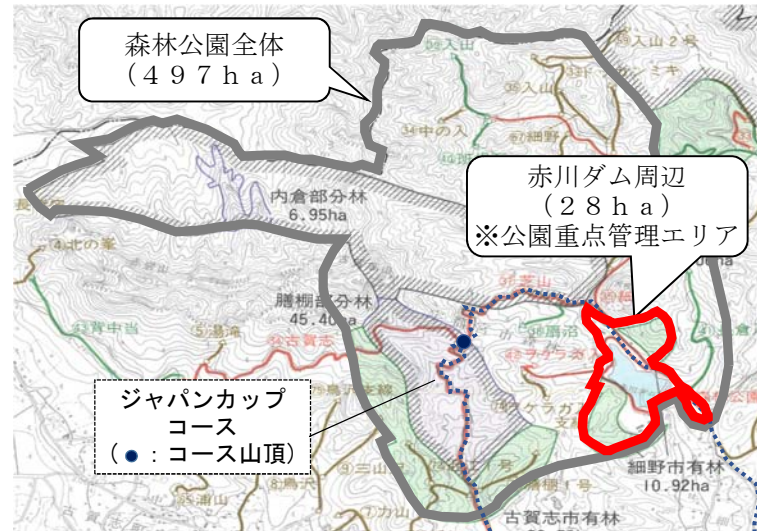
2 方針の位置付け

- 「第6次宇都宮市総合計画基本計画」を実現するため、関連計画との連携を図りながら、概ね10年先の森林公園の姿を見据え、魅力向上等に向けた再整備の基本的な指針となるもの
- SDGsの目標「8 働きがいも経済成長も」「17 パートナースhipで目標を達成しよう」の達成に貢献するもの



森林公園の概況

1 区域



2 施設概要

(1) 森林公園

- 設置目的: 自然に親しむ環境を市民に提供するとともに、自然愛護思想の高揚と市民福祉の向上を図るもの
- 附属施設(機能): キャンプ施設, バーベキュー施設, 少年自然の家, 魚釣り施設等

(2) 公園内主要施設

ア 自然休養村管理センター

- 設置目的: 地域の特性に応じた観光農林漁業を計画的かつ組織的に推進し、農林漁業関係者の経済の安定を図り、市民に健全な休養の場を提供するもの
- 施設内容(機能): 貸館(ホール・和室)

イ サイクリングターミナル

- 設置目的: 青少年の健全育成とスポーツ振興を図るもの
- 施設内容(機能): 宿泊, レンタサイクル

◎ 全施設とも供用開始から40年が経過し老朽化が進行また、利用者ニーズに沿った機能の不足などにより施設等の稼働率は減少傾向

※ 管理形態

指定管理者制度を導入し、平成26年度以降は上記施設を一体的に管理する手法を採用

【現指定期間】平成31年4月1日～令和6年3月31日

3 土地利用に係る諸規制

- 公園区域全体が市街化調整区域であるほか、区域の多くが森林法に基づく保安林に指定されているなど、土地利用に係る法令規制がある。
- 市有地は赤川ダム周辺が主で、大半が国有地や民有地となっている。

来訪者等のニーズ

1 日常的な来訪者ニーズ (H29森林公園等来訪者アンケート調査)

(1) 森林公園来訪者

- 来訪者の半数以上が充実を求める機能は、コンビニ等の物販機能, カフェ・レストラン等の飲食機能, シャワー等の温浴機能
- ※ 森林公園来訪者の属性
 - 登山者やハイカー, サイクリストがメイン(年間来訪者数約24万人)
 - 居住地は、市内が約5割, 県内市外が約3割

(2) 大谷地域来訪者

森林公園への立寄者は1割未満であるが、自然を活かしたアウトドアに関心がある方の割合は18%

2 民間事業者と連携した取組を通じた参加者・事業者のニーズ

(H30・R1体験型観光コンテンツ実証調査及びR2アウトドアイベント)

- 市内外の30～40代の家族連れを中心に多くの参加があり、自然を活かした体験型観光地としての森林公園への高い満足度を確認
- 参画した事業者から今後の森林公園でのアウトドア事業の展開への意欲を確認
- 駐車場からインフォメーション施設等への導線改善などの意見を確認

現状分析

1 内部環境分析

(1) 強み

- 豊かな自然環境(古賀志山, 赤川ダム湖面)
- ジャパンカップサイクルードレースの開催地(ロードレースの聖地)
- 恒常的な利用(登山者, ハイカー, サイクリスト)

(2) 弱み

- 利用者ニーズに沿った機能の不足(物販・飲食機能など)
- 施設の老朽化による魅力低下(施設等の稼働率が減少傾向)
- 大谷地域からの誘客につなげる手段が不足し、回遊が僅か(森林公園への立ち寄り1割未満)

2 外部環境分析

(1) 機会

- 自然体験型観光ニーズの高まり(民間の調査ではアウトドア市場の直近3年間の平均伸び率は3.6%となっており、今後コロナ禍においても堅調な伸びを示すものと推測)
- 国によるアウトドアスポーツツーリズムの推進(国が平成30年に『スポーツツーリズム需要拡大戦略』を策定し、日本の自然資源を活用した「アウトドアスポーツツーリズム」を新規重点テーマのひとつに設定し、様々な施策を展開することとしている)
- アウトドア事業への参入に意欲を示す民間事業者の存在(体験型観光コンテンツの実証調査等を実施)
- 大谷地域とろまんちっく村への観光客の増加(誘客に向けた様々な取組が着実に進展)
- コロナ禍に伴う新たなニーズの高まり(ワーケーションや自転車利用など)

(2) 脅威

- 他市町の観光エリアにおける体験型観光による誘客促進(ツインリンクもてぎや高根沢町道の駅のグランピング施設など)
- 台風や大雨による自然災害の増加(令和元年度の台風19号による土砂崩れ被害など)

課題

- 森林公園の有する資源の更なる有効活用(豊かな自然環境, ジャパンカップ開催地)**
 - 自然体験型観光ニーズの高まりや国の動向を踏まえ、自然や水辺環境を活用したアウトドア事業の強化により、誘客を促進する必要がある。
 - ジャパンカップを活かしたライト層向けの魅力を創出する必要がある。
 - 他市町の観光エリアとの差別化が図れる自然と自転車等を活用した森林公園ならではの魅力を創出する必要がある。
- 利便性と快適性に優れた機能・施設の充実**
 - 飲食・物販やインフォメーション等の利用者ニーズや、ワーケーション等新たなニーズの高まりを踏まえた機能強化や施設の再整備により、誘客を促進する必要がある。
 - 登山者やハイカーなど既存の来訪者の継続確保に向け、自然災害への対策を図る必要がある。
 - 他市町の観光エリアと同等以上の機能強化や施設の再整備を行う必要がある。
 - 自然災害に対応できる施設の再整備を行う必要がある。
- 大谷地域等の周辺観光とのつながりの創出**
 - 大谷地域とろまんちっく村の観光客が立ち寄る魅力を創出する必要がある。
 - 大谷地域とろまんちっく村の観光客が立ち寄りやすい環境を創出する必要がある。

再整備の方向性

森林公園の有する資源のフル活用による魅力向上

森林公園の有する豊かな自然環境や、ジャパンカップサイクルードレース開催地の強みをフル活用し、これまでのキャンプやバーベキュー、ハイキングなどの機能に加え、民間活力によるアウトドア事業の強化や、年間を通してジャパンカップコースの魅力を体感できる環境の整備など、自然に親しめるメニューの幅を広げることにより、森林公園の魅力向上を図る。

自然に親しみながら憩える場としての機能強化によるおもてなしの充実

ニーズの変化や自然災害の増加等を踏まえ、飲食等の拡充や施設の再整備など、自然に親しみながら憩える場としての機能強化を図ることにより、市民をはじめとする全ての来訪者にとって、安全・安心で快適な滞在・憩いの環境を創出する。

大谷周辺地域の周遊環境向上による更なる活性化の促進

大谷地域とろまんちっく村では満たせないニーズを踏まえながら、森林公園の機能向上を図るとともに、周遊手段や受入環境の強化など、3つの拠点間の周遊性向上につながる環境を創出することにより、大谷周辺地域全体の更なる活性化を促進する。

目指すべき姿と目標

1 目指すべき姿

森・水・自転車に会い触れ合うアウトドアフィールド ～たくさんのアドベンチャー体験を宇都宮で～

◎キーワード 『遊ぶ』

◎イメージ

豊富な資源を活かしたアウトドア体験やサイクリングスポーツ体験を通じて、自然を満喫できる場所

市民をはじめとする全ての来訪者が眺望を楽しみ快適に滞在できる場所

大谷地域とろまんちっく村とつながり、それぞれの観光客が立ち寄りたくなる場所

2 目標(概ね10年後) 森林公園の再整備により、現状で約24万人の森林公園の年間来訪者数を概ね1.5倍増の35万人にすることを旨とする。

導入・強化する主な機能

目指すべき姿と目標の実現に向けて、今後森林公園に導入・強化する主な機能は以下のとおり(以下の5つの大枠の機能をメインに再整備を実施)

古賀志山などの自然や赤川ダム湖面を活かしたアウトドア体験機能

自然体験型観光ニーズの高まりや国の動向を踏まえ、豊かな自然環境を活かしたアウトドアアクティビティ等を提供する。

- ・ **導入** 湖面や森林を活かしたアクティビティ体験
- ・ **強化** 自然や眺望を活かした宿泊体験

ジャパンカップを活かしたサイクリングスポーツ体験機能

ジャパンカップ開催地の強みを活かし、他の自転車施設との役割分担を行いながら、子どもから大人まで楽しめる、ロードレースをはじめとした様々なサイクリングスポーツを提供する。

- ・ **導入** 地形を活かした多様なサイクリングスポーツ体験
- ・ **強化** 通年で楽しめるジャパンカップコース体験

総合インフォメーション機能

実証調査の参加者等からの意見を踏まえ、森林公園に着いてすぐに来訪の高揚感を高める環境を創出する。

- ・ **強化** 来訪者の利用目的に合わせた総合案内やアクティビティ体験等の受付

快適な滞在・憩いのための機能

既存の登山者・ハイカー等の利用者ニーズに沿った機能の不足や施設の老朽化による魅力低下等を踏まえ、市民をはじめとする全ての来訪者にとって安全・安心で快適な滞在・憩いの環境を創出する。

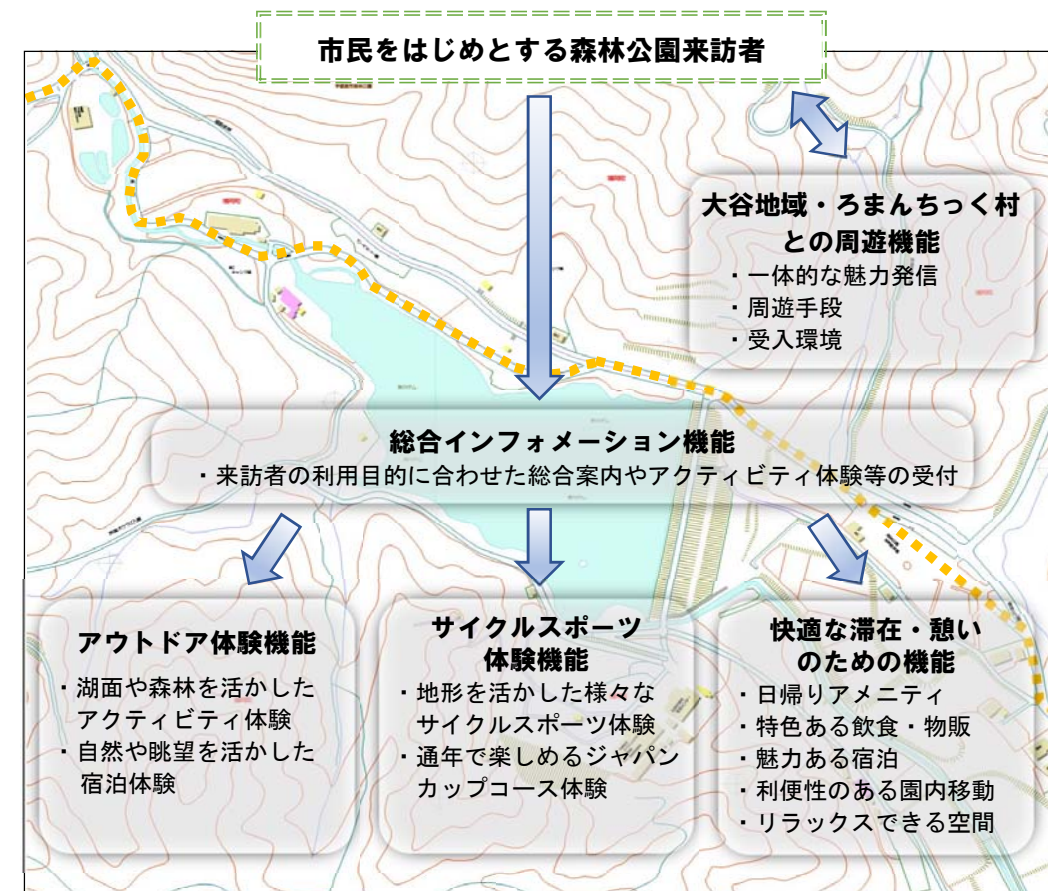
- ・ **導入** 温浴機能等の日帰りアメニティ
- ・ **強化** 地場農産物等を活かした森林公園ならではの特色ある飲食・物販
- ・ **強化** ワークーション等新たなニーズにも対応可能な魅力ある宿泊
- ・ **強化** レンタサイクル等の利便性のある園内移動
- ・ **強化** 花の栽植等四季を感じながら自然の中でリラックスできる空間

大谷地域・ろまんちっく村との周遊機能

大谷地域等とつながり、周遊性向上に向けた環境を創出する。

- ・ **導入** 大谷地域等との一体的な魅力発信
- ・ **強化** 乗り捨て可能なレンタサイクル等の大谷地域等との周遊手段
- ・ **強化** 既存駐車場の拡充等の大谷地域等からの来訪者の受入環境

【導入・強化する主な機能のイメージ】



※ : ジャパンカップコース

整備の進め方

- ・ 再整備に当たっては民間活力を最大限活用し、市は引き続き基盤整備や安全対策を行いながら、再整備に係る全体コーディネートを円滑に行う。
- ・ 今後、再整備方針に基づき、土地利用に係る諸規制を踏まえながら、民間事業者への意向調査を通じて、ICTの活用も視野に具体的な整備内容や、整備・事業スキーム及びスケジュール等を検討し、令和3年度中に再整備基本計画として取りまとめていく。